

0922  
21  
L2

黃濱開港見聞誌

上

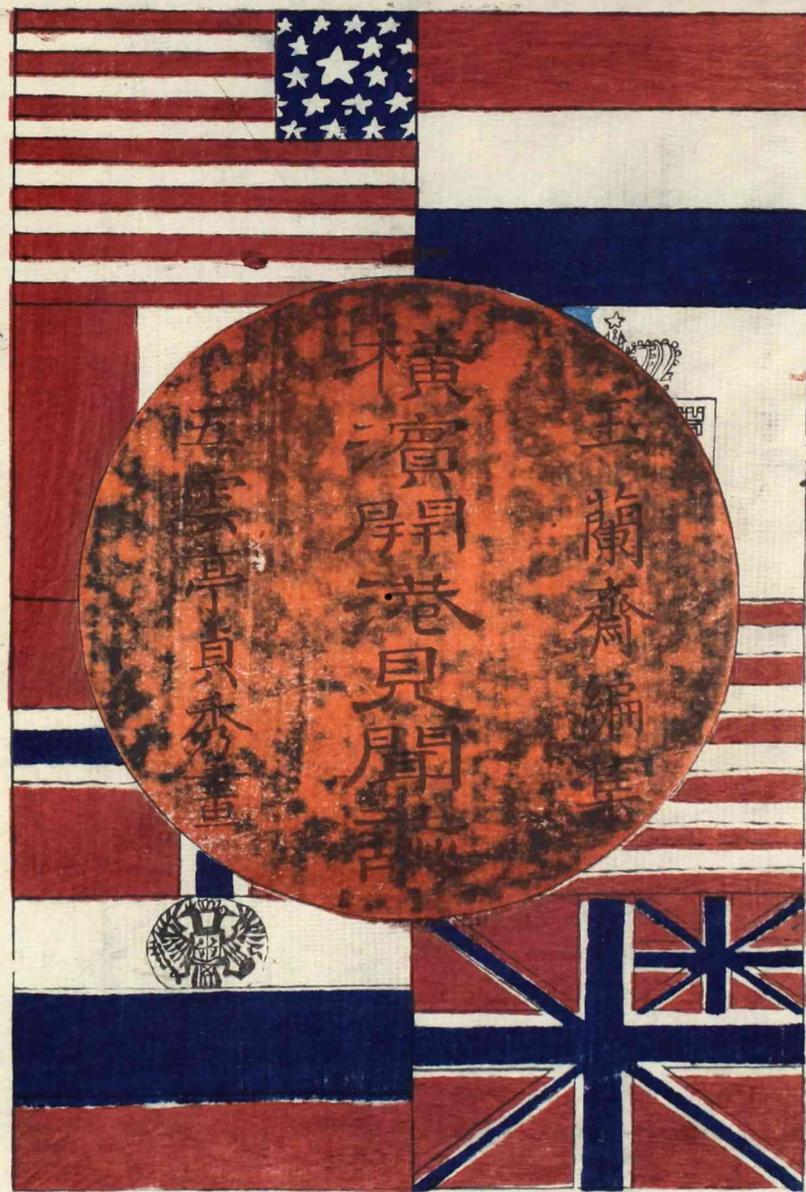
09  
21

0922  
21  
2



此冊中に出る圖ハ凡異人館内朝夕の支みで食事の製又ハ菓子其品の寫ト  
 以て或ハ横濱の持渡る銅板又石板油繪の寫未だ成以て是を出し萬国の風俗  
 も自らはみ出る多し弟初圖み出た所の連發行歩之跡ハ玉版み見る如みにて  
 横濱異人館大勢集り之の支みありて共十人二十人集りて此日鉄炮を持出其  
 少きも多しハ三度見ると有て此繪み合せ見ると時ハ異なるハ大勢小勢の  
 其繪圖の方を以て此初み出た最も足の揃方其外能調練の有様次  
 女性衣紋の写其製一方又異人館み出た牛屋あり是ハ渡来の国人弟一  
 の常食ハ其屋の内ハ牛を飼ふの圖寫真を出し銅板繪み見る如  
 西洋諸州ハ牛羊の干肉の市有を見る是亦食支の物不付て圖を写て此内  
 み出た其外數多あること圖み写すとども次編み譲りと微細み出た多

玉蘭齋主誌



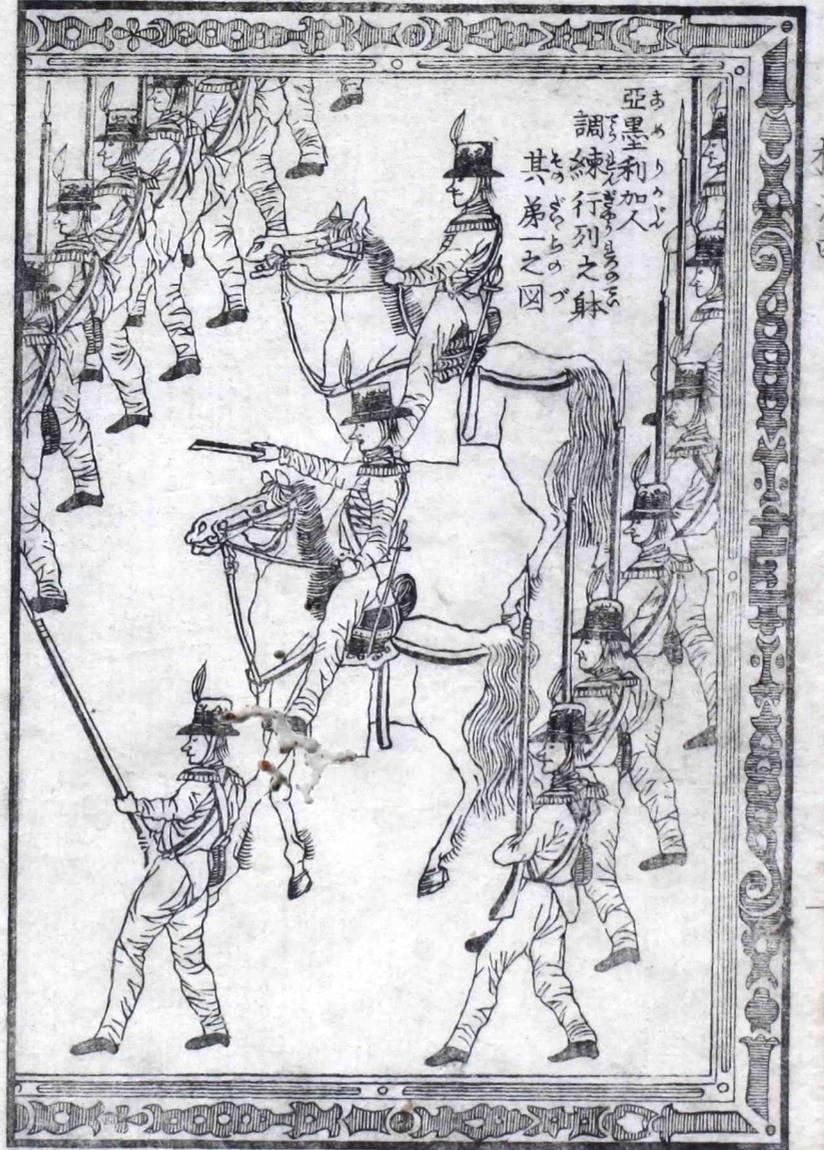
横浜国立大学附属図書館



06582976



黃  
寶  
四



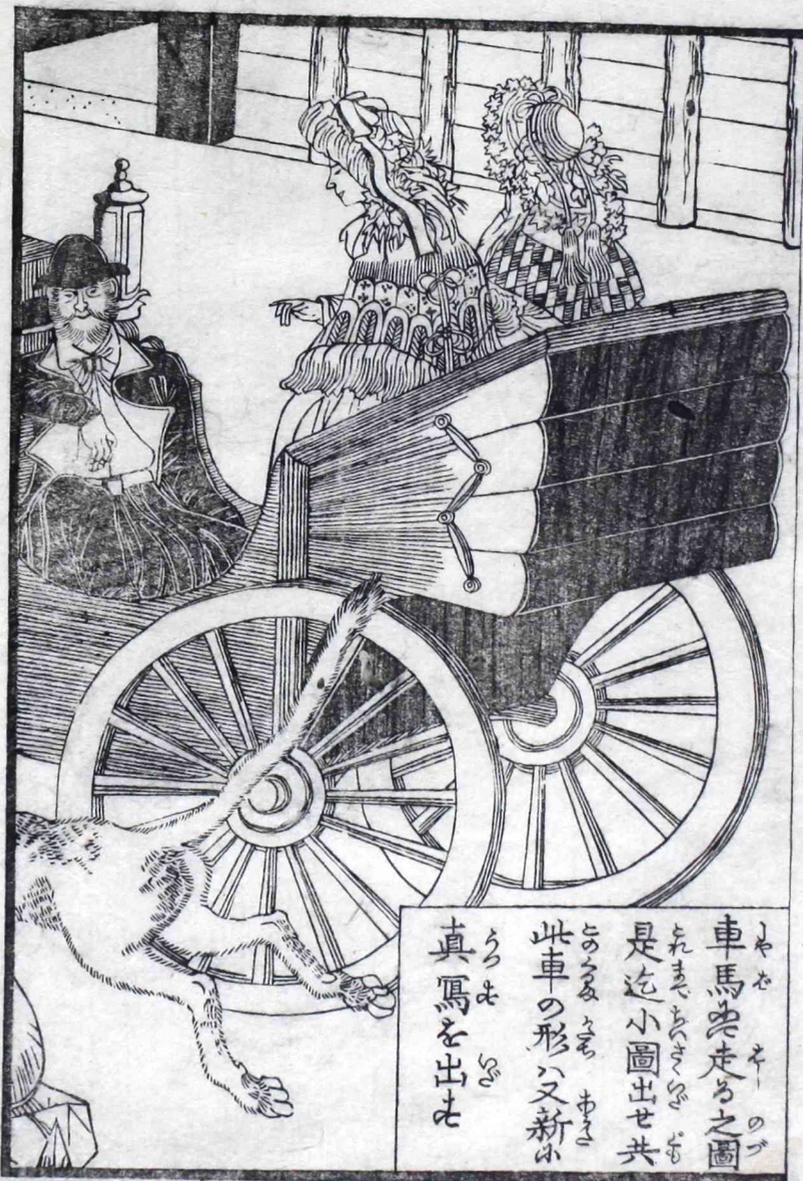
亞  
墨  
利  
加  
人  
調  
練  
行  
列  
之  
狀  
其  
第  
一  
之  
圖

橫  
濱  
四

其二之圖



利加連  
油繪之  
繪之玉  
板之  
連發行  
歩之圖

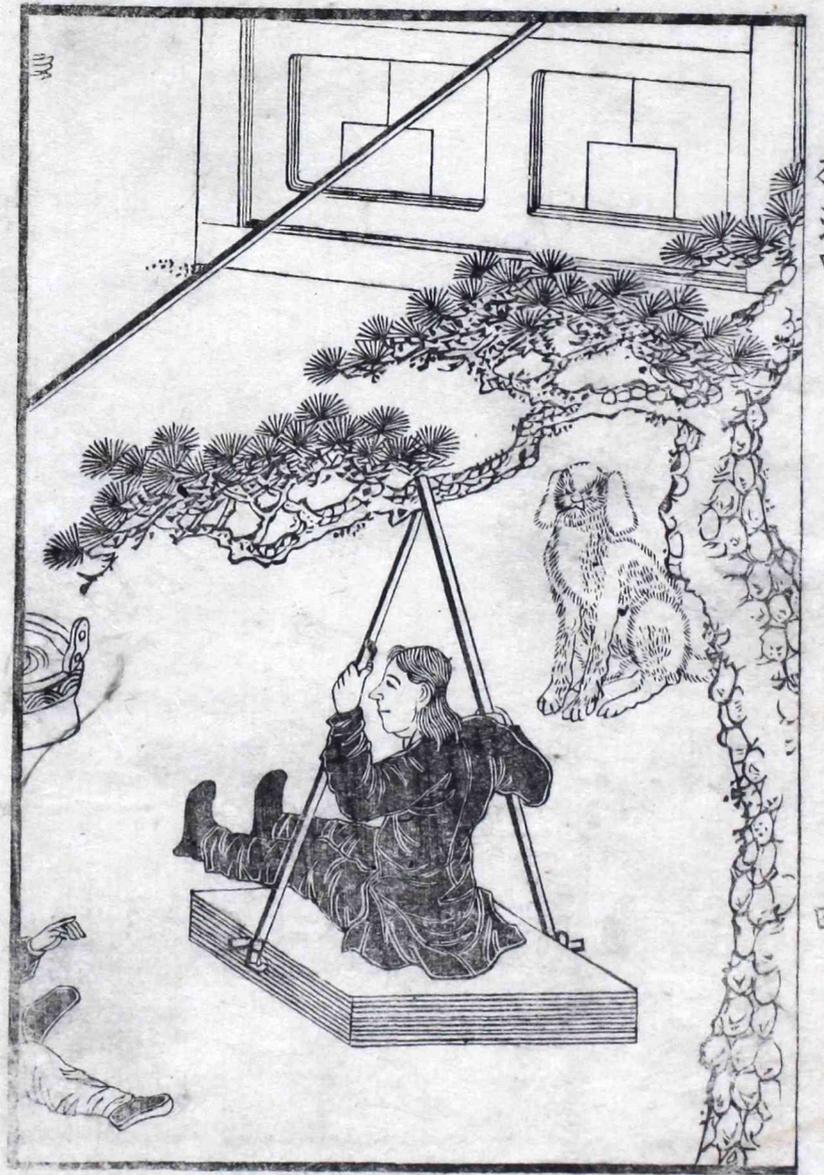


車馬走之圖  
 是迄小圖出せ共  
 此車の形又新小  
 真寫を出せ



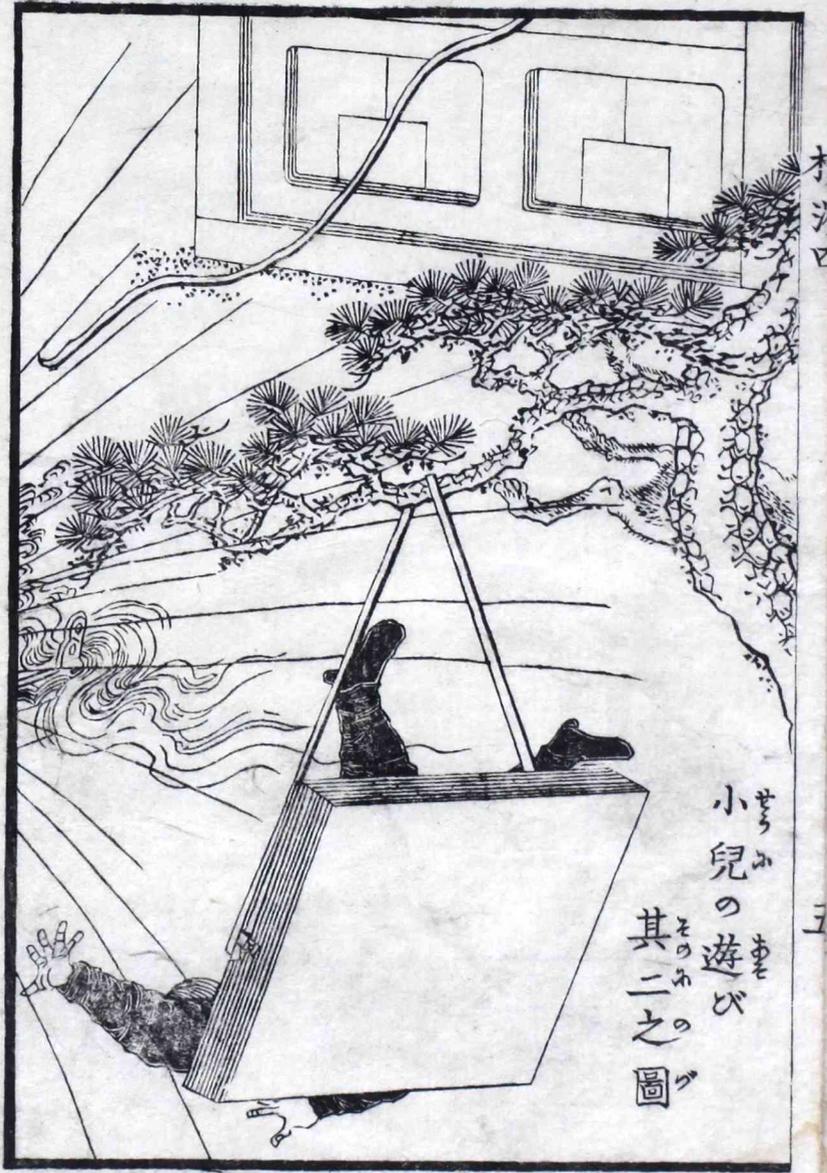
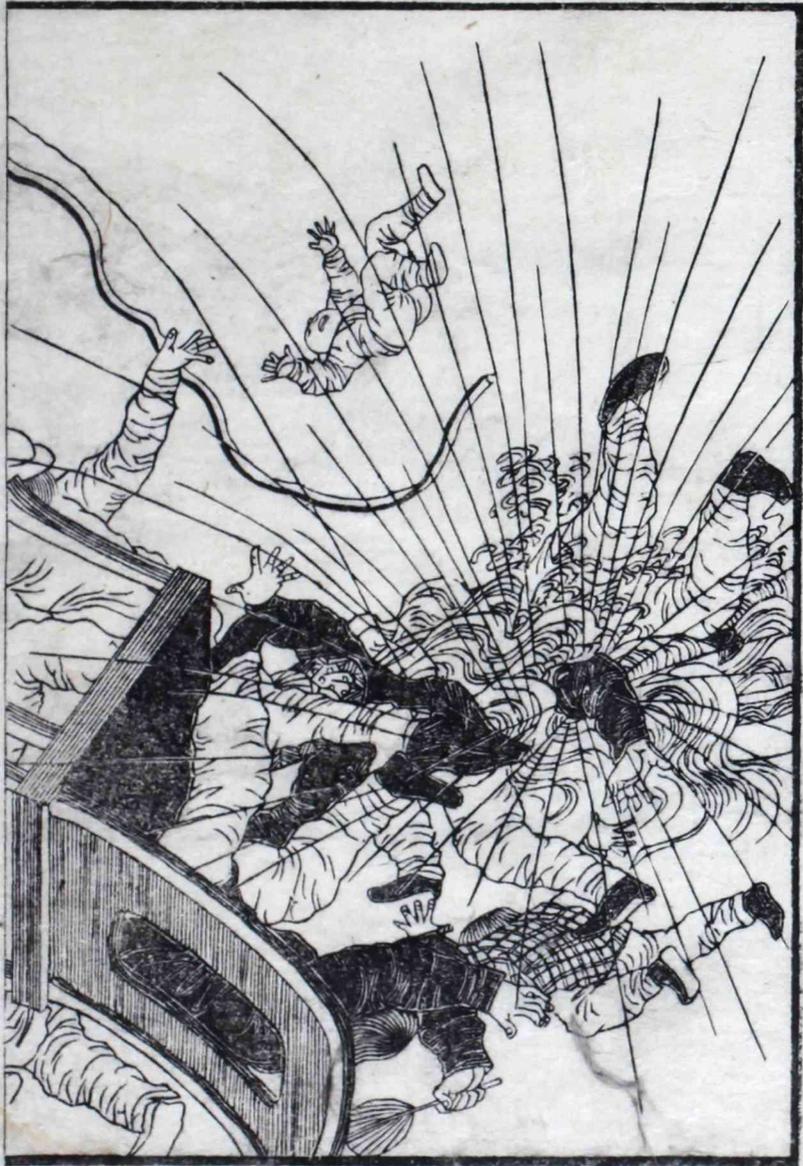
黄真四

五



柳邊四

四



小兒の遊び  
其二之圖



黄白



異商館の妻小兒は  
あつて文字を讀む之圖

オシロ



同  
英吉利人  
いぎりまどん



横濱渡来異人真寫之圖  
曾西亞人  
よこはま  
とらいじん  
まこと  
のまづ  
かろしやん



同  
あめりかじん  
亞墨利加人



同  
あらんじん  
阿蘭陀人

阿蘭陀

同  
波爾杜瓦人



黄  
廣  
日

同  
佛蘭西人



神  
池  
四



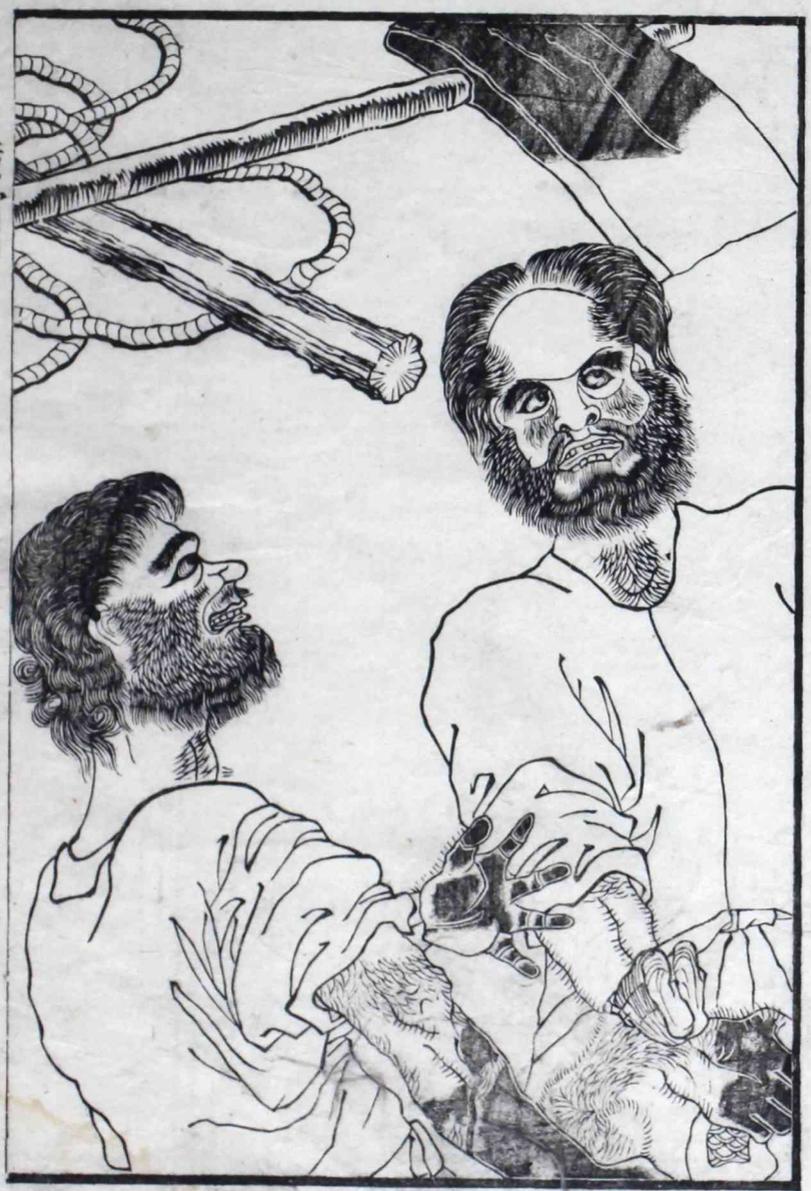
比咩トモリ  
 牛羊其外諸  
 畜を以て賣  
 家あり是と横濱  
 老ハ牛屋といハ  
 多家の外之品  
 を定めて言下品と  
 分る之圖



黄真白



相澤



斗屋の内を是をみる人の  
 ありりくは多き人  
 亞墨利加人の中ゆ極邊鄙の  
 所に住む其寫之圖



牛乳を食す其肉を食用仕と油を取り  
 又乳を取りて是をボートルと名附異人  
 日用の食ふ是を坊のいさるいさる



亞比利加女人是也黒人女との横濱  
 中買物をふ出大風呂敷み多分  
 つまみまらぬ額の呼吸をまじ  
 多のふ下げて通入又度月大さ  
 西瓜を頭の上み置て道を行み  
 是



何れも重きもの頭の上  
 置り又そのめ持行の圖

此巻中の初圖み出たる連行のありさぬ横濱異人休日あり時とて  
 右のまらびある浪見る先その足揃へ鉄炮の仕方まらく足揃ひく  
 沓音も一声のてくみ初め美まらり次の圖み走馬車と出ま是此  
 編み出るといふも大まら細細みあつて今巻中み出ま其作方と  
 写しとま一日異人館内み見る小児の遊びを写し初め十三才とあつたが  
 二才余の小児を脊負ひ細き繩を張りて真中を所み金盞のやうあつ  
 大キサ二尺七八寸廻りある水有その繩を渡らんとて時み小童多く集り  
 来り一人ハ門内家のかづらみある荷子とあつて其上み登り小した團  
 扇をもちて右のたらのの上を渡らまらヨラーヨラーチヤとつて両手と上  
 て是をもち又一人ハ松の木みあら紐をうけ図のてく臺板をつり一本  
 下りの紐をうけとてうを尻の加減みく留り両手みまらと左右の  
 紐をつりみ心うけあつる舂みあつて大音をもち細渡りを見てヨラーとつ  
 とる見物の子供とて成由ゆめと申して臺のうみ團扇を持たるが



国又亞墨利加多々く大海を渡り種々の国へ交易し渡る也ふその  
ポートルを持行ばその地ふよに暑さ極つたなり寒きと雪の宛中  
に住国あり悪気深きあり真水を得て食すと人ども此ポートルを用  
ゆの時其諸氣小當るこも一是やくをあげ何を煮ても其中へ此  
ポートルを用ゆる油をまじりたりたるあふ粉つたりたるを又うどんの  
粉を入りて是をかりまきポートルめく揚下官又ハヤとひ来る黒人の常食  
用也南京の常ふパンを用ひざる国也横濱の南京人食事ハ米を用  
ゆ著るのゆききりとかたむのさるい実和漢相同ト又此牛の皮を滑  
して文書の紙や紙ふ仕立皮箱ふ製して打ゆきの模様を美事ふ付て  
金箔を置く萬國分圖の本あんどある渡来の異人その面鉢を写  
す阿蘭陀魯西亜佛蘭察ハ凡飲りたる人あり鼻高く眼深く  
王多くいあきたる髪鬚ハ茶色あり亦黒色あり白毛をまじりたる  
あり娘とも見ゆる若き女性の黒色三分白色七分の髪あり身の長と

木

七

何國も定めり然れども西洋ハ志々身高き方多し亞墨利加人  
ハ面色その眼中鼻の形吾國ハ近き人多く鬚鬚ハ茶色又ハ鼻の黒  
色あり女性の髪ハ巻のどなる鯨骨の串を通りて下ハ大みぢりくある  
美巾をりて是を製し頭ハ巾笠を冠りて下ハ付るものも  
むとのハ此笠ハ外へ行き其道をり用ゆるとめく館内ハ在とハ是  
を用ゆるこも一只布の美あり用ゆるものもつり上是を切分る  
牛を逆しまふり揚てひきり其国の風と見へ羊もあふ又ハ亀子皆  
その料理の仕方ありと右のてくらの小綱をのりつり上是を切分る  
然もその手際よく仕分をまるこも妙多し是を見る人きりてむとこじき  
容態も目もあつらぬとありと晰のらちみらるる方大勢の見物其  
中より何さ此牛羊の此項ハ諸方みくが鍋を煮るうらぶを作り  
て殺せぬ見ゆるふらんていひき其鳴声とあをきるのを殺す所ハ又是  
あ上を行も負の志を秤あつら等分ごらうとらぬ肉で太さふ

黄

一



大なる西瓜も載せ又小桶の如き物も置て行ハ吾國の大原矢瀬  
 又ハ畑より出て都中へきておき大坂まで頭上ハ大なる物をのせり賣行ハ  
 似る所のありと人々是與より風ありか黒人國の類ありて其色黒  
 其髪何となく女の品ありて其黒色の面黧也也  
 我身の後を人々の近く来るとおれ入時ハ兩股を内の方へちりきり  
 りと尻目をおき小鍋のそとまわらるゝ釜敷ハ目鼻を黒き中  
 みびりとちりて見目も誰かおれぬる一生國の氣候あり  
 色黒き常の思へば此人の本國ハ西洋より南海中へ入りおき  
 処ありて暑き日中砂の中へ入置玉子たちも食を至る昔ハ  
 「モイ」亦「ミイ」亦「ニイ」亦人の焼くありとて國とて大廣  
 の原中にあるあり此人種を生長する其片やその大河又ハ海付の処ハ  
 おと一と思ふから暑き大わつ國ハ生る者ハその色黒き方多きあり

横國藝 第515号  
 横濱分校 昭和4.20

人情ハ替るともむつりて實情深しとのみまはせ此横濱ハ未だ男女  
 の若者も元来女夫の中へ出来なむを渡来するらんが女夫とあるは男  
 多し又男の方ハ女の多し仲人の多しとあるは男多しとの言ハ  
 おと一なる此も命をみ見深る男異人と共ハ日本横濱ハおと一戻りて  
 真黒ははかを見るところんと死ぬるむりの恋病もあまんじ

横濱文庫四編終

横浜国立大学附属図書館



06582976